

令和3年度事業報告

1. 講演会・講習会・見学会等の開催による科学技術の振興並びに知識の啓発(継続事業1)

- ・ 講演会の開催或いは援助

科学技術に関する専門的知識の啓発活動の一環としての講演会、また研究者が各研究分野において研究の成果を発表し、広く科学技術の専門的知識の現状を理解してもらい講演会を開催或いは援助した。その件数は3件。

1) 令和3年7月31日(土) 大阪冶金会 講演会

演題及び講師

「量子論で材料科学・工学に取り組む」

大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授

古谷 直人 氏 (平成7年卒業・学界)

「管理会計とエンジニアリングの融合」

甲南大学名誉教授・甲南学園理事長

長坂 悦敬 氏 (昭和56年卒業)

Zoom 開催した。

2) 令和3年11月5日(金)

吹田祭 講演会

演題及び講師

「企業における研究開発～先端研究から商品開発、量産化・事業化の体験談～」

元パナソニック株式会社テクノロジー本部技監

藤井 映志 氏

Zoom 開催した。

3) 令和4年3月24日(木) 大阪冶金会 講演会

演題及び講師

「材料技術による機械製品の革新、事業への貢献～川崎重工における事例～」

川崎重工株式会社取締役 常務執行役員 技術開発本部長

中谷 浩 氏 (昭和59年卒業)

Zoom 開催した。

- ・ 第46回数学講座の開催

令和3年7月29日(木)、30日(金)に開催。2日間で延べ18人の受講者が来場。

演題及び講師は次の通り。

1)「エルゴード理論」

大阪大学名誉教授

西田 俊夫 氏

2)「実例で見る連続群とその表現」

大阪大学名誉教授

難波 誠 氏

3)「力学系」

大阪大学名誉教授

長井 英生 氏

- ・ 見学会・講演会の開催

毎年多くの一般の人に対し科学技術に関する知識の啓発のため、日頃見ることのできない工場や施設、構造物、建築・土木の工事現場等の見学会を東京、大阪で開催しているが、今年はコロナ感染防止のため大阪支部の全行事、東京支部の見学会は中止した。

(1) 令和3年10月23日(土)

大阪大学工業会東京支部 講演会「秋の集い」を ZOOM 形式で開催。

演題及び講師

「車が変わる車で社会を変える」

のうえノバ(株)代表取締役社長 元(株)トヨタ IT 開発センター・会長

井上 友二 氏(九大工 S48M)

「地味だが面白いコトづくり活動:細胞製造」

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻教授

(兼)テクノアリーナ細胞製造コトづくり拠点 拠点長

紀ノ岡 正博 氏

・ 第13回展示会の開催

第12回をもって終了することとなった。音楽会は第20回をもって終了。

・ 情報配信サービスの実施(工業会ホームページ)

科学・技術的な情報、大学・工学研究科や大阪大学工業会或いは関係機関のイベント開催情報等の配信サービスとともに、(一社)大阪大学工業会の予算・決算等の公告の掲載を行った。

「TECHNO NET」(研究・科学論文誌)の購入購読をしておられない方や一般の方にも、掲載に時期のずれはあるもののその内容を工業会ホームページ上に掲載し、広く情報を共有していただいた。

令和元年 10 月からはホームページの作成は事務所で行っている。

2. 大学における教育・研究活動並びに科学技術に関する調査・研究活動に対する援助及び奨学(継続事業2)

・ 海外交流活動の支援

募集は実施したが応募がなかった。令和3年度をもって募集終了。

・ 大阪大学工業会賞の授与

第14回大阪大学工業会賞の審査はコロナ禍の影響を配慮し、掛下知行副会長を審査員長に WEB 会議での審査を実施し(3/5)、下記の4件を選出(副賞10万円/件)した。工業会が出した本年のキーワードは、「あなたが社会に出て活躍する為には、あなたの専門領域以外のどの様な知識や教養が必要になると考えますか」。なお、応募は9件であった。

授与式は15日に馬場口登研究科長、桑畑進次期研究科長の隣席の下開催した。プレゼンターは豊田政男会長。

受賞者は以下の通り。

筒井 裕哉 応用自然科学分野(応用化学専攻)

テーマ:「光活性型ルイス酸を指向した色素導入カゴ型ホウ素錯体の合成、光物性、触媒能の評価」

指導教員:安田 誠 先生

泉 竜之介 応用自然科学分野(応用化学専攻)

テーマ:「低毒性 AgInS₂/GaS_x コア/シェル量子ドットのエレクトロルミネッセンス素子への応用」

指導教員:桑畑 進 先生

松坂 匡晃 応用理工学分野(マテリアル生産科学専攻)

テーマ:「オステオサイトの応力感受を起点とした骨配向化機構の解明」

指導教員:中野 貴由 先生

橋本 大輝 応用自然科学分野(応用化学専攻)

テーマ:「有機ホウ素触媒を利用した含窒素環式化合物の水素化/脱水素化を鍵とする水素精製」

指導教員:生越 専介 先生

3. 研究・科学論文誌等の刊行(継続事業3)

・ 研究・科学論文誌「TECHNO NET」の発行

産業界・学界研究者の研究論文, 最新の技術情報, 科学評論, 大阪大学大学院工学研究

科・工学部の調査・研究内容の紹介等を掲載した研究・科学論文誌「TECHNO NET」(A4版40~60

頁)を令和3年度に年4回刊行した。
刊行号数:592, 593, 594, 595

4. キャリアアップの支援(継続事業4)

- ・ キャリアアップ支援の実施
コロナ禍のため中止。
- ・ 大阪大学工業会イブニングセミナー「企業と学生をつなぐ」を開催
コロナ禍のため中止。
- ・ 「女性研究者とその卵たちの集い」はコロナ禍のため中止。

5. 社会人・企業向け教育講座の開催 詳細は別紙参照

- ・ 応用化学系社会人教育講座(その他事業1)
産学高分子塾及び個別企業のニーズに合わせたカリキュラムによる出張高分子塾を開催。
- ・ 機械工学系技術交流会(その他事業3)
講演会及び機械工学関連分野を知るためのラウンドテーブルを開催。
- ・ パワエレ技術者塾
実務につなげるパワーエレクトロニクス技術者の育成。

6. その他(法人事業)

- ・ 予算理事会及び決算理事会はコロナ禍のため対面による開催は困難と判断し、リモートによる理事会を開催し、事業計画・予算、事業報告・決算を審議した。9月6日臨時理事会を開催(対面とリモート併用)、公益目的財産がゼロになったこと等工業会の現状説明と「企画・展望ワーキング」の設置が了承された。
- ・ 研究科長と会長の面談及びフューチャーイノベーションセンター打ち合わせ
研究科長との面談:①R3. 2. 29、②9. 29、③R4. 3. 18
桑畑進研究科長に工業会の現状と問題点を説明し、工業会が同窓会組織としての意義を深めるための「魅力化」に向け、工学研究科との連携の具体的アクションの相談をした。
フューチャーイノベーションセンター打ち合わせ:R3. 4. 19
工業会の現状と問題点を説明し、今後テクノアリーナ構想への工業会の寄与の具体策を検討いただくことを依頼した。
- ・ 企画・展望ワーキングの開催(4回)R3. 4. 19、7. 12、11. 13、R4. 2. 21、
主査:掛下知行副会長、幹事:森勇介理事
メンバー:豊田政男会長、山田隆持副会長、日根野正和理事、澁谷陽二理事、大桐伸介理事、
吉田富士江(工学研究科リレーションシップコーディネーター)
事務局:曾根祥光、白木一成、
工業会従来施策の見直し、工学研究科との連携の方向性の確認、同窓会の存在意義を高める新事業の検討等工業会の改革の為にワーキングを発足。
海外交流助成、音楽会及び技術展示会の終了、数学講座は令和4年度をもって終了、工業会賞の変更、工業会誌の発行を当面4月と10月の年2回とすることに決定。
- ・ 専攻同窓会担当教員との意見交換会を対面・リモートのハイブリッドで開催。
工業会の現状及び同窓会のDX化計画について説明。各専攻同窓会の現状・問題点の説明があった。
各専攻同窓会と工業会との連携に向けての意見交換を行った。
- ・ 新年会はコロナ感染防止の観点から昨年に引き続き中止した。

:以上